

第7期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

※「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)」の自己評価シートをもとに作成

保険者名	第7期介護保険事業計画に記載の内容				H30年度(年度末実績)		
	区分	現状と課題	第7期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
鴻巣市	①自立支援・介護予防・重度化防止	平成30年以降、高齢者は増加傾向にあり、令和7年には団塊の世代が75歳以上となり、要介護認定者もさらに増加が見込まれる。このようなことから、運動教室や介護予防に関する知識の提供に努め、介護予防、健康寿命の維持に繋げるよう図ってまいります。	「はつらつ健康スタジオ」の推進 (民間事業者への委託事業)	「はつらつ健康スタジオ」の開催 (H29) (H30) (R元) (R2) ・会場数 13 13 13 13 ・実施回数(年) 552 280 280 280 ・延参加者数 13,474 14,000 14,000 14,000 ※H29は実績値、H30以降は目標値	運動機能・口腔機能向上・認知機能低下予防に繋がる運動や脳トレをはじめ、介護予防や栄養に関する情報を提供します。 ●平成30年度実績 ・会場数 13カ所 ・実施回数(年) 552回 ・延参加者数 13,635人 ・アンケート調査 444人 ※9割を超える方(401名)から、「介護予防の効果を感じる。少し効果を感じる」との評価をいただいた。 (自己評価 9割以上 ◎)	◎	今後も予算を確保し引き続き同事業を推進していく予定であるが、参加者がキャバを超えた場合、さらに実施回数を増やすと、各公共施設の一般利用者の制限がかかわってくることから、場所の確保・調整が課題となってくる。
鴻巣市	①自立支援・介護予防・重度化防止	平成27年度、平成28年度、平成29年度と「65歳以上の要支援・要介護認定率」推移しているが、今後、団塊の世代が75歳以上となる令和7年には高齢者人口構成比では後期高齢者が56.7%に達する見通しで、後期高齢者になると認知症や病氣、怪我の発生率も高まり、介護認定者も増加する事が見込まれます。 そこで、本市では介護予防が重要と考え、その一つとして高齢者の生きがいや楽しみとなる場を提供することで「閉じこもりの防止」を図ることで、介護予防に繋げていくよう努めてまいります。	「わがまちサロン」の推進 (「介護予防リーダー」(市民ボランティア)が中心となり実施されている事業)	「わがまちサロン」の開催 (H29) (H30) (R元) (R2) ・会場数 6 6 6 6 ・実施回数(年) 128 130 130 130 ・延参加者数 3,268 2,900 2,900 2,900 ・延ボランティア数 943 960 960 960 ※H29は実績値、H30以降は目標値	公共施設(6カ所)をサロンの会場として、介護予防リーダーが中心となり来所する高齢者に対して、軽体操や脳トレ、おしゃべり、歌の合唱などを通して生きがいや楽しみを感じていただき、閉じこもりの防止に繋げ、利用者と担い手(介護予防リーダー)の介護予防を図ります。 ●平成30年度実績 ・会場数 6カ所 ・実施回数(年) 131回 ・延参加者数 3,144人 ・延ボランティア数 1,010人 ・アンケート調査 118人 ※8割を超える方(97名)から、「満足、やや満足」との評価をいただいた。 (自己評価 7割以上9割未満 ○)	○	今後も予算を確保し引き続き同事業を推進していく予定であるが、参加者がキャバを超えた場合、さらに実施回数等を増やしていくことから、場所の確保・調整が課題となってくる。また、同事業は介護予防リーダーが中心の事業であることから、介護予防リーダーの協力人数や実施回数増加の同意を得られるかなどの課題がある。
鴻巣市	①自立支援・介護予防・重度化防止	平成27年度、平成28年度、平成29年度と「65歳以上の要支援・要介護認定率」推移しているが、今後、団塊の世代が75歳以上となる令和7年には高齢者人口構成比では後期高齢者が56.7%に達する見通しで、後期高齢者になると認知症や病氣、怪我の発生率も高まり、介護認定者も増加する事が見込まれます。 そこで、本市では介護予防に有効な運動教室を提供し、高齢者が楽しみながら、介護予防に繋げていくよう努めてまいります。	「すこやかシニア体操」の推進 (「介護予防リーダー」(市民ボランティア)が中心となり実施されている事業)	「すこやかシニア体操」の開催 (H29) (H30) (R元) (R2) ・会場数 2 2 2 2 ・実施回数(年) 44 45 45 45 ・延参加者数 1,350 1,300 1,300 1,300 ・延ボランティア数 186 230 230 230 ※H29は実績値、H30以降は目標値	公共施設(2カ所)をすこやかシニア体操の会場として、介護予防リーダーが中心となり来所する高齢者に対して、わがまち体操、簡単なリズム体操、軽体操などを実施していただく事で、交流を通して利用者や担い手(介護予防リーダー)の介護予防を図ります。 ●平成30年度実績 ・会場数 2カ所 ・実施回数(年) 43回 ・延参加者数 1,213人 ・延ボランティア数 229人 ・アンケート調査 47人 ※7割を超える方(35名)から、「満足、やや満足」との評価をいただいた。 (自己評価 7割以上9割未満 ○)	○	今後も予算を確保し引き続き同事業を推進していく予定であるが、参加者がキャバを超えた場合、さらに実施回数等を増やしていくことから、場所の確保・調整が課題となってくる。また、同事業は介護予防リーダーが中心の事業であることから、介護予防リーダーの協力人数や実施回数増加の同意を得られるかなどの課題がある。

保険者名	第7期介護保険事業計画に記載の内容				H30年度(年度末実績)																	
	区分	現状と課題	第7期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策															
鴻巣市	②給付適正化	<p>・平成29年5月に成立した「地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正する法律」では、地域包括ケアシステムを深化・推進し、高齢者の自立支援と要介護状態の重度化防止、医療・介護連携の推進、地域共生社会の実現を図るためには、在宅サービスの担となる「ケアプラン」の適切な作成が重要になってくる。市内には30事業所あまりの「居宅介護支援事業所」があり、事業所間の「ケアプラン」作成の優劣があり得ることも事実である。そのため、事業所間のプランの格差をなくすこと及び介護給付費の適正化を図るためにも適切なケアプランチェックが必要になってくる。</p>	<p>ケアプランチェックの取組(地域包括支援センターへの委託事業)</p>	<p>「ケアプランチェック」の開催</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>(H29)</th> <th>(H30)</th> <th>(R元)</th> <th>(R2)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・チェック回数</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>・チェック件数</td> <td>48</td> <td>60</td> <td>60</td> <td>60</td> </tr> </tbody> </table> <p>※H29は実績値、H30以降は目標値</p>		(H29)	(H30)	(R元)	(R2)	・チェック回数	12	12	12	12	・チェック件数	48	60	60	60	<p>・ケアプランチェック回数 10回 ・ケアプランチェック件数 40件</p>	○	<p>今後も同事業を推進していく予定であるが、該当ケアプランの抽出の仕方を工夫する必要がある。今までは各事業所(ケアマネ)の任意のケアプランの提出を求めているが、今後は「給付実績等」を精査して、特定の対象者のケアプランを保険者が指名し、該当のケアプランチェックを行うことで、より給付の適正化を図ってきたい。</p>
	(H29)	(H30)	(R元)	(R2)																		
・チェック回数	12	12	12	12																		
・チェック件数	48	60	60	60																		